

# 和泊町立国頭小学校

## ～国頭ヤッコ・仲里節伝承活動の取組～



国頭ヤッコは、今から400年前に琉球から渡ってきたものと思われる。とても踊り好きの人が沖縄に渡って習い、覚えた四つの踊りがユーモアたっぷりでひょうきんだったので、これらを組み合わせさせてヤッコと名付けた。

仲里節は、「琉歌百控」に久米島仲里間切に起こった歌とあるが、伊平屋島の仲里説、仲島とする説もある。日頃、琉球の民謡と踊りを見て稽古に意欲を燃やしていた人が、琉球の人々の中に入って踊られた中の一曲である。

郷土芸能である「ヤッコ」「仲里節」は昭和45年から郷土教育の一環として学校教育の中に取り入れられたことに始まり、連綿と続いているものである。踊りは、国頭芸能振興会の皆さんが指導してくださる。練習は、学校の総合的な学習の時間や創意の時間に位置付け、年間を通して計画的に行っている。夏休みの後半、ラジオ体操後にも実施している。大運動会では、男子全員で「ヤッコ」を踊り、女子全員で「仲里節」を踊る。その際、保護者や地域の方も踊りに加わり、大いに盛り上がる。地域行事の敬老会でも、4～6年児童が毎年この踊りを披露し、地域の高齢者の方々にも喜んでいただいている。